



2023年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年8月14日

上場会社名 株式会社サイフューズ
コード番号 4892 URL <https://www.cyfusebio.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 秋枝 静香

問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO経営管理部長 (氏名) 三條 真弘

TEL 03-6435-1885

四半期報告書提出予定日 2023年8月14日

配当支払開始予定日 未定

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第2四半期の業績(2023年1月1日～2023年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|----------------|-----|------|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2023年12月期第2四半期 | 18 | 94.5 | 363 | | 362 | | 364 | |
| 2022年12月期第2四半期 | 332 | | 96 | | 76 | | 114 | |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益 |
|----------------|-------------|------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年12月期第2四半期 | 46.73 | |
| 2022年12月期第2四半期 | 203.61 | |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|----------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2023年12月期第2四半期 | 4,386 | 3,410 | 77.7 |
| 2022年12月期 | 4,815 | 3,769 | 78.3 |

(参考)自己資本 2023年12月期第2四半期 3,409百万円 2022年12月期 3,769百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年12月期 | | 0.00 | | 0.00 | 0.00 |
| 2023年12月期 | | 0.00 | | | |
| 2023年12月期(予想) | | | | 0.00 | 0.00 |

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の業績予想(2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-----|------|------|---|------|---|-------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 604 | 61.5 | 833 | | 680 | | 682 | | 87.78 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2023年12月期2Q | 7,813,800 株 | 2022年12月期 | 7,773,300 株 |
| 期末自己株式数 | 2023年12月期2Q | 株 | 2022年12月期 | 株 |
| 期中平均株式数(四半期累計) | 2023年12月期2Q | 7,802,657 株 | 2022年12月期2Q | 564,500 株 |

(注)1 当社は、2022年9月2日付で普通株式1株につき500株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期中平均株式数(四半期累計)を算出しております。

2 当社は、2022年8月19日付でA種優先株式、B種優先株式、C種優先株式、D種優先株式及びE種優先株式を保有する全株主が定款に定める取得請求権を行使したことにより、同日付で自己株式として取得し、対価として普通株式を交付しております。なお、当社が取得したA種優先株式、B種優先株式、C種優先株式、D種優先株式及びE種優先株式は、同日付で会社法第178条に基づき全て消却しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2023年8月22日(火)に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

| | |
|--------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期損益計算書 | 6 |
| (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 | 7 |
| (4) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (会計方針の変更) | 8 |
| (セグメント情報等) | 8 |
| (重要な後発事象) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国経済は、円安などの為替動向やロシア・ウクライナ情勢の長期化によるエネルギー価格の高騰、物価上昇等への懸念から、依然として景気の先行きが不透明な状況が続いているものの、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行されるなど、経済活動の正常化が進みつつあります。

国内における再生・細胞医療、遺伝子治療分野においては、厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 再生医療等製品・生物由来技術部会において、再生医療等製品の製造販売承認が了承された製品が累計で19製品国内上市される等、新たな再生医療等製品の上市への期待感は引き続き高まっている状況です。

当社は独自のプラットフォーム技術を用いた革新的な再生医療等製品や3D細胞製品の創出を通じて、新たな再生医療・細胞医療の実用化・産業化に貢献するべく、研究・技術開発を中核とする事業活動を推進してまいりました。また、細胞製品開発と並行して、デバイス販売や共同研究活動等により、当社の基盤技術を国内外に普及させる事業活動にも取り組んでまいりました。

具体的には、①再生医療領域において、再生医療等製品の实用化へ向けたパイプライン開発及び研究用細胞製品の受託製造、②創薬支援領域において、製薬企業・非臨床試験受託企業等を相手方とした創薬支援用のツールとしての細胞製品の開発・販売、③デバイス領域において、基盤技術を搭載したバイオ3Dプリンタ等の三次元細胞積層システム機器の開発・販売等を多面的に展開しております。

このような状況の下、当第2四半期累計期間における各事業における経営成績及び進捗の概況は、以下のとおりです。

当第2四半期累計期間における売上高は、装置開発の技術支援及びデバイス関連部品の販売等により18,272千円を計上し、販売費及び一般管理費は、合計で373,237千円を計上した結果、営業損失は363,656千円（前年同期比275.0%増）となりました。

また、研究開発に係る助成金受領等により、営業外収益11,060千円（前年同期比62.6%減）を計上した一方、借入金の利息等の支払により営業外費用10,358千円（前年同期比18.8%増）を計上したことから、経常損失は362,953千円（前年同期比376.8%増）、四半期純損失は364,606千円（前年同期比217.2%増）となりました。

なお、当社の事業は細胞製品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しています。

①再生医療領域

当社では、主要な再生医療パイプライン（末梢神経再生、骨軟骨再生、血管再生等の革新的な3D細胞製品）について、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（以下、「AMED」という。）等の公的機関の支援のもと、再生医療等製品の承認取得・実用化を目指し、各大学・研究機関及び連携企業等の共同開発パートナーとともに臨床開発及び研究開発を進めております。

当第2四半期累計期間において、末梢神経再生については、京都大学医学部附属病院とともに実施した、AMED委託事業「末梢神経損傷を対象とした三次元神経導管移植による安全性と有効性を検討する医師主導治験」が完了し、医師主導治験の結果について、京都大学とともにプレスリリース並びに第96回日本整形外科学会学術総会等で発表いたしました。

骨軟骨再生については、AMED橋渡し研究プログラム「バイオ3Dプリンタ技術を用いた膝関節特発性骨壊死に対する骨軟骨再生治療」において、慶應義塾大学病院とともに次相臨床試験開始に向けた開発を進めてまいりました。また、新たに経済産業省「令和4年度 第二次補正予算『再生・細胞医療・遺伝子治療の社会実装に向けた環境整備事業』」に採択され、引き続き、慶應義塾大学病院とともに骨軟骨再生の社会実装に向けて、開発に取り組んでまいります。

血管再生については、国立大学法人佐賀大学とともに引き続き、臨床試験を継続して進めております。

さらに、主要パイプラインに加え、次世代のパイプラインの育成及び探索開発が進捗しており、共同研究先である国立大学法人広島大学が採択されたAMED事業「令和5年度 再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム/「バイオ3Dプリンターで作製した三次元移植組織を用いる革新的歯周再生療法の開発」に参画し、歯科領域における研究開発を進めることとなりました。当社では今後も引き続き、共同研究パートナーとの研究開発を進めるとともに、新たなシーズ探索・基礎研究を進めてまいります。

また、当社と細胞製品の製造に関する包括的パートナーシップ契約を締結している太陽ホールディングス株式会社及びその子会社である太陽ファルマテック株式会社とともに、将来の再生医療等製品の実用化を見据えた、製造販売体制構築に向けて準備を進めました。そのほか、藤森工業株式会社との間では、細胞の大量培養に関する共同技術開発を、また、岩谷産業株式会社との間では、凍結保管技術の開発を進めております。各共同研究については、2023年3月に開催された第22回日本再生医療学会学術総会において、共同研究先とともに開発成果の公表等を行いました。

その他、海外における協業については、日立グローバルライフソリューションズ株式会社、MetaTech (AP) Inc. 及びTaiwan Hitachi Asia Pacific Co., Ltd. との間で、再生医療分野の発展及び台湾地域での協業を進めることを目的とした基本合意書を締結しました。

以上のように当社では、今後もパートナー企業との間で戦略的パートナーシップの強化を進め、当社の革新的な再生医療等製品の早期の実用化に向け、開発を進めてまいります。

②創薬支援領域

当社では、創薬支援領域において、独自の基盤技術により、スキャフォールドを使用せずに、ヒト肝細胞等の細胞のみから、肝機能が長期間にわたり持続する3D肝臓構造体を開発し、製薬企業や非臨床試験受託会社等の創薬研究のニーズに応える創薬支援用途でのツール開発を進めております。

これまで、業務提携パートナーである積水化学工業株式会社、大阪サニタリー株式会社及び株式会社SCREENホールディングスと共同開発を進めてきた「ヒト3Dミニ肝臓」については、当第2四半期累計期間において、富士フィルム和光純薬株式会社と販売提携契約を締結し、販売を開始いたしました。今後は、本製品の販売活動を進めるとともに、ヒト3Dミニ肝臓をはじめとした、臓器が有する機能を体外で再現するコンセプトの新製品「機能性細胞デバイス」の開発を進めてまいります。

③デバイス領域

当社では、デバイス領域において、基盤技術を搭載したバイオ3Dプリンタ等の三次元細胞積層システム機器の開発・販売等の事業活動を進めております。また、バイオ3Dプリンタによる基盤技術普及を進めることにより、再生・細胞医療領域におけるポジション確立及びシーズ普及・探索を目指すとともに、細胞製品の実用化に必要な技術応用及び新技術開発を進めております。

当第2四半期累計期間においては、業務提携パートナーである日本精工株式会社との間で、当社の再生医療等製品の実用化に向けた新技術に関する共同開発を進めました。

今後も引き続き、再生医療等製品の実用化及び臨床開発に向けたデバイス群の開発及びサポートに注力してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ428,931千円減少し、4,386,406千円となりました。主な減少要因は、現金及び預金の減少380,706千円であります。

負債については、前事業年度末に比べ69,775千円減少し、975,761千円となりました。主な減少要因は、未払法人税等の減少14,334千円及び1年内返済予定の長期借入金の減少45,132千円であります。

純資産については、前事業年度末に比べ359,156千円減少し、3,410,644千円となりました。主な減少要因は、四半期純損失の計上364,606千円であります。

この結果、自己資本比率は77.7%と前事業年度末に比べ0.5ポイント減少しました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績見通しにつきましては、2023年2月14日付「2022年12月期通期決算短信」で公表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2022年12月31日) | 当第2四半期会計期間 (2023年6月30日) |
|---------------|------------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,437,307 | 4,056,601 |
| 売掛金 | 13,583 | 1,168 |
| 商品及び製品 | 30,085 | 33,388 |
| 原材料 | 10,313 | 7,626 |
| 前渡金 | — | 897 |
| 前払費用 | 17,713 | 24,969 |
| 未収消費税等 | 56,239 | 18,400 |
| 未収入金 | 6 | 2 |
| その他 | 106 | 37 |
| 流動資産合計 | 4,565,355 | 4,143,093 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物附属設備（純額） | 130,146 | 130,905 |
| 機械及び装置（純額） | 712 | 534 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 58,173 | 52,672 |
| 有形固定資産合計 | 189,032 | 184,112 |
| 無形固定資産 | | |
| 特許権 | 3,474 | 3,057 |
| ソフトウェア | 1,510 | 1,397 |
| その他 | 500 | 500 |
| 無形固定資産合計 | 5,484 | 4,955 |
| 投資その他の資産 | | |
| 出資金 | 10 | 10 |
| 敷金及び保証金 | 55,454 | 54,234 |
| 投資その他の資産合計 | 55,464 | 54,244 |
| 固定資産合計 | 249,982 | 243,312 |
| 資産合計 | 4,815,337 | 4,386,406 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2022年12月31日) | 当第2四半期会計期間 (2023年6月30日) |
|---------------|------------------------|----------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 3,197 | 4,384 |
| 短期借入金 | 467,320 | 467,320 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 77,824 | 32,692 |
| 未払金 | 45,765 | 33,995 |
| 未払費用 | 25,728 | 20,506 |
| 未払法人税等 | 29,130 | 14,795 |
| 預り金 | 11,542 | 6,286 |
| 前受収益 | 22,029 | 41,780 |
| 流動負債合計 | 682,536 | 621,761 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 363,000 | 354,000 |
| 固定負債合計 | 363,000 | 354,000 |
| 負債合計 | 1,045,536 | 975,761 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,272,005 | 1,274,730 |
| 資本剰余金 | 3,893,932 | 3,896,657 |
| 利益剰余金 | △1,396,838 | △1,761,445 |
| 株主資本合計 | 3,769,099 | 3,409,942 |
| 新株予約権 | 702 | 702 |
| 純資産合計 | 3,769,801 | 3,410,644 |
| 負債純資産合計 | 4,815,337 | 4,386,406 |

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日) | 当第2四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 332,504 | 18,272 |
| 売上原価 | 120,751 | 8,691 |
| 売上総利益 | 211,752 | 9,580 |
| 販売費及び一般管理費 | 308,727 | 373,237 |
| 営業損失(△) | △96,974 | △363,656 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 19 | 18 |
| 助成金収入 | 29,146 | 10,514 |
| その他 | 400 | 527 |
| 営業外収益合計 | 29,566 | 11,060 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 2,735 | 4,987 |
| コミットメントフィー | 4,710 | 5,370 |
| 為替差損 | 1,271 | — |
| 営業外費用合計 | 8,718 | 10,358 |
| 経常損失(△) | △76,127 | △362,953 |
| 特別損失 | | |
| 本社移転費用 | 37,807 | — |
| その他 | 0 | — |
| 特別損失合計 | 37,807 | — |
| 税引前四半期純損失(△) | △113,934 | △362,953 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,004 | 1,652 |
| 法人税等合計 | 1,004 | 1,652 |
| 四半期純損失(△) | △114,938 | △364,606 |

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| | 前第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日) | 当第2四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前四半期純損失(△) | △113,934 | △362,953 |
| 減価償却費 | 21,568 | 15,398 |
| 差入保証金償却額 | 3,871 | 1,220 |
| 受取利息 | △19 | △18 |
| 助成金収入 | △29,146 | △10,514 |
| 為替差損益(△は益) | 4 | △0 |
| 支払利息 | 2,735 | 4,987 |
| コミットメントフィー | 4,710 | 5,370 |
| 本社移転費用 | 37,807 | - |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 54,895 | 12,414 |
| 前渡金の増減額(△は増加) | 20,092 | △897 |
| 未収入金の増減額(△は増加) | 38 | 3 |
| 棚卸資産の増減額(△は増加) | 25,721 | △615 |
| 前払費用の増減額(△は増加) | △7,174 | △7,937 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △7,326 | 1,187 |
| 未払金の増減額(△は減少) | △8,586 | △10,371 |
| 未払費用の増減額(△は減少) | 17,718 | △5,195 |
| 前受金の増減額(△は減少) | △60,301 | - |
| 未払又は未収消費税等の増減額 | △47,522 | 37,838 |
| その他 | △226 | △18,939 |
| 小計 | △85,071 | △339,024 |
| 利息の受取額 | 14 | 17 |
| 利息の支払額 | △2,638 | △4,758 |
| 補助金の受取額 | 48,146 | 30,266 |
| 法人税等の支払額 | △2,009 | △2,441 |
| 移転費用の支払額 | △1,905 | - |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △43,463 | △315,940 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △10,606 | - |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 3,707 | - |
| 有形固定資産の取得による支出 | △153,827 | △11,347 |
| 定期預金の預入による支出 | △100,000 | - |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △260,726 | △11,347 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| ファイナンス・リース債務の返済による支出 | △7,999 | - |
| 長期借入れによる収入 | 90,000 | - |
| 長期借入金の返済による支出 | △22,438 | △54,132 |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | 143,783 | △4,736 |
| 株式の発行による収入 | 114,450 | 5,450 |
| 新株予約権の発行による収入 | 1,350 | - |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 319,145 | △53,418 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 14,955 | △380,706 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,613,040 | 3,437,307 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 1,627,996 | 3,056,601 |

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

当社の事業は、細胞製品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。